

148
201

明治十八年八月一日ヨリ實施

曹洞宗制第八號寺院住職任免規程

非賣品

019686-000-1

特15-65

曹洞宗制第八号寺院住職任免規程

小山 捨吉 / 刊

M27. 11

ABG-0480



第八號

曹洞宗寺院住職任免規程

第一章 總則

第一條 曹洞宗普長ハ明治十七年太政官第十九號公布ヲ奉シテ自今全國末派寺院住職任免ヲ統掌ス

第二條 曹洞宗兩本山住職任免ニ限リ兩本山盟約第七條ニ據ルヘシ
第三條 曹洞宗普長ハ末派住職任免ヲ統掌スルガ爲メニ該規程ヲ創制スルヲ左ノ如

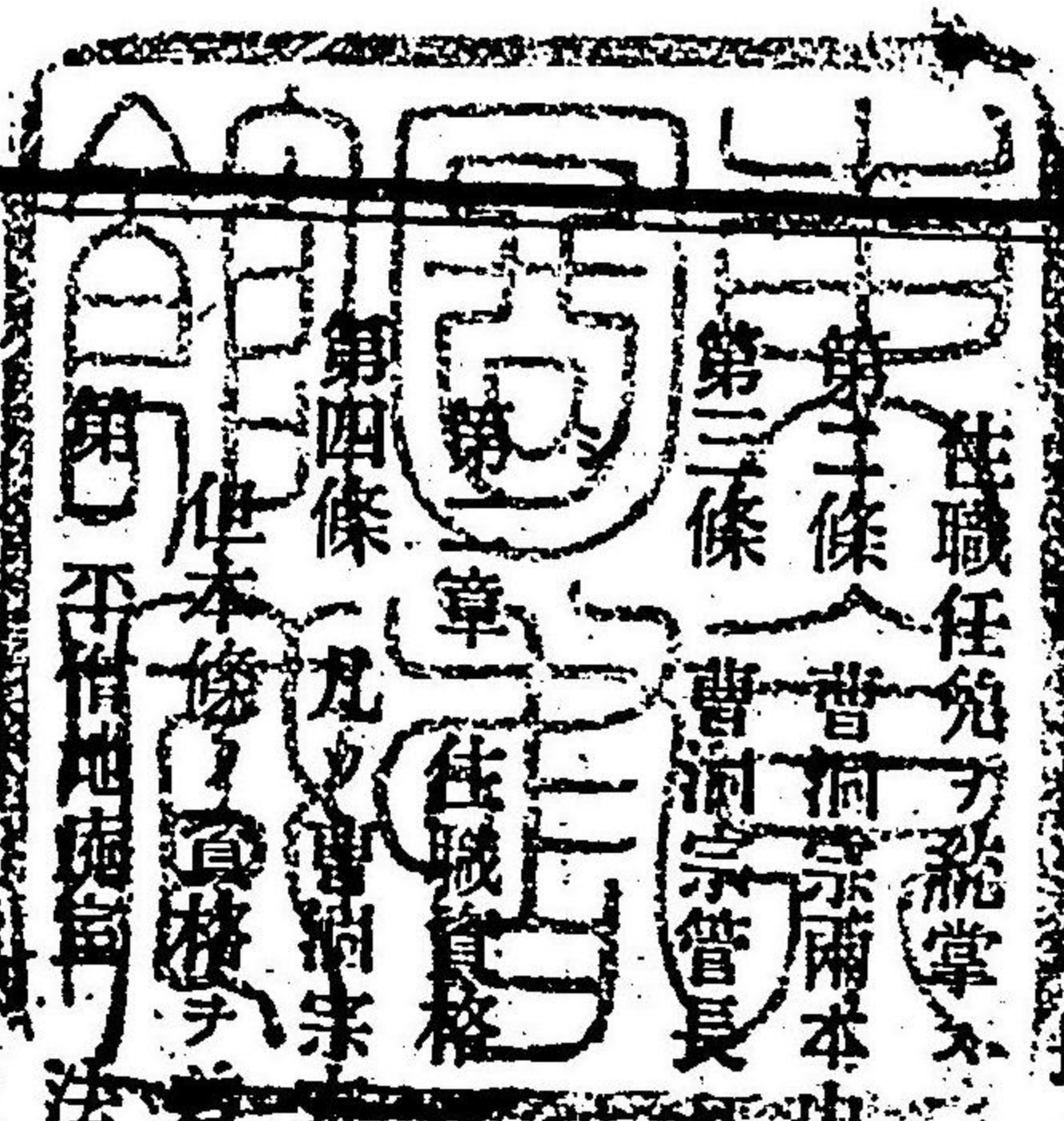
第二章 住職資格

第四條 凡ソ曹洞宗末派寺院住職相當ノ資格ハ左ノ各項ヲ以テ標準ト爲スベシ
但本條ノ資格ヲ差定スルハ試験規則ニ據ル

第五條 法臘入衆上座以上學科本校初級以上ハ又叢林行脚五年以上教師補位

第六條 法臘傳法長老以上學科本校四級以上ハ又叢林行脚七年以上教師位

第七條 法臘結制大和尚以上學科本校七級以上ハ又叢林行脚十年以上教師位



第五條 法臘學科等ハ必ス均等ナラシムルヲ以テ試験証明狀ヲ所有セサレハ第四條ノ資格ヲ具スル者トセズ

第三章 住職撰定

第六條 凡ソ曹洞宗未派寺院現住老衰又ハ病惱ニ罹リ住職ヲ辭セント欲スルキハ先ツ自己ノ鑑識ヲ以テ該寺格ニ適當セル人器ヲ撰ヒ而後進退ノ旨ヲ示談協議シ小本寺へ申告シテ承認ヲ受クヘシ

但本山任撰地ヲ除ノ外後住ヲ撰定セシテ住職ヲ辭スルヲ得ス

第七條 凡ソ曹洞宗未派寺院住職撰定ノ示談協議ニ干與スヘキ人員ハ左ノ如シ但從前ノ慣例アル者ハ該慣例ニ據テ示談協議スヘシ

小本寺以上 法類及未寺檀中(檀中ナキハ信徒世話人)

法地 法類(法類ナキハ組寺同門)檀中(檀中ナキハ信徒世話人)

平僧地以下 師僧及信徒世話人

第八條 凡ソ曹洞宗未派寺院住職撰定ニ該リ示談協議ハ該寺ヲ維持シテ益盛隆ナラシムルヲ主眼トス故ニ干與人ハ毫モ私情ヲ挾テ可否ヲ論ス可ラス尤モ現住ノ撰出正當其人ニ非サルヲ衆同確認スル時ハ事由ヲ陳述シテ再撰セシムルヲ得

第九條 凡ソ曹洞宗未派寺院住職撰定ニ該リ干與人ハ被撰者道徳ノ優劣知識ノ淺深

品行ノ臧否等ニ就テ充分ニ見込テ論究スルヲ得ト雖苟モ縁實囑托若クハ私親情誼ニ涉リテ是非スルヲ許サス而シテ甲乙意見ヲ異ニシテ協議整ハサルニ於テハ雙方ヨリ具狀シテ宗務支局ヲ經由シ管長ノ教裁ヲ請フヘシ

第十條 前條ノ場合ニ於テ檀中數派ニ分レ歸依不歸依ヲ論シテ止マサル時ハ曹洞宗務局左ノ事項ニ據テ之ヲ裁斷ス

- 一人器ヲ取調第二章第四條ニ定メタル資格ニ適スルヤ否ヲ驗ス
- 一既ニ資格相當ナレハ之ガ不歸依ヲ唱フルハ何等ノ點ニアルヤヲ勘査ス
- 一究竟歸依不歸依ノ是非ヲ認定スルハ必シモ人員ノ多少ニ由ラス眞ニ其寺ヲ保護シテ宗教ノ盛大ヲ冀圖スル確信者ノ歸否ヲ是トシ私情利慾ノ爲ニ附和雷同者ノ歸否ヲ非トス

第十一條 凡ソ曹洞宗未派寺院他山へ移轉スヘキモノ現住地ノ後席ヲ撰定スルヲ第六條ニ同シ

但至急移轉ヲ要シ自カラ後席ヲ確定スルノ違ナキキハ檀中へ示談シテ相當ノ鑑寺ヲ建テ之ヲ小本寺並宗務支局へ届出該鑑寺ヲ向フ六ヶ月以内ニ本條ノ取斗ヲ爲サシムヘシ

第十二條 凡ソ曹洞宗未派寺院現住遷化跡ノ後席ヲ定ムルハ必ス遺書ニ據ルヲ定則

トス故ニ第十三條第十四條ニ該ルヲ除ノ外何等ノ事故アリハ遺書ヲ棄却シテ後席ヲ撰出スルヲ許サス

第十三條 凡ソ曹洞宗末派寺院現住遷化跡無遺書又ハ遺書無効ニ歸シテ採收スヘカラサルキハ小本寺ノ鑑識ニ據テ後席ヲ撰出スヘシ此場合ニ於テ小本寺ノ撰出或ハ其當チ失スルキハ于與人ハ第八條第九條ニ據テ再撰ヲ請求シ又ハ管長ヘ具狀スルヲ得

第十四條 凡ソ曹洞宗末派寺院退隱若クハ他山ニ移轉ノ後一住ヲ隔テ、舊寺ヘ再住ノ者ハ世代ノ列ニ加ヘサルニ依リ遺書シテ没後ノ繼席ヲ撰定スルノ權ナシ故ニ再住者遷化跡亦第十三條ニ同シ

第十五條 凡ソ曹洞宗末派寺院ノ中少檀微祿若クハ他ノ事故ニ係リ無住跡ノ住職ヲ撰定スルハ第七條ニ定メタル于與人ト小本寺トノ協議ニ據ルヘシ

第十六條 前條ノ協議ニ臨ミ或ハ寺有ノ財産ヲ護惜シ維持法ヲ立ツルチ名トシテ故ラニ住職ヲ置カス寺產ヲ私收スル者アルキハ宗務支局ニ命シテ無住中ノ出納ヲ調査セシメテ直チニ住職ヲ撰定セシムルヲアルヘシ

但本條ノ場合ニ於テ于與人該寺ノ負債ヲ捏造シ動不動産ヲ差押ヘントスルモ支局撰定ノ住職ハ之ヲ負擔シ應諾スルノ義務ナキ者トス尤モ性質公明ニシテ寺借ニ

相違ナキ部分ヲ除ク

第十七條 凡ソ曹洞宗末派寺院住職ノ中逃亡若クハ失踪六ヶ月ヲ經ルキハ自カラ住職ヲ棄却スル者トナシ第十五條ノ振合ニ準シテ後住ヲ撰定スヘシ

第十八條 凡ソ曹洞宗末派寺院住職ノ中法律ヲ犯シ若クハ宗規ニ觸レテ當体失職又ハ免職跡ノ後席ハ都テ曹洞宗務局ヨリ任撰スルチ定則トス

但宗規ニ觸ル者ニ對シテ旨ヲ諭シ本人チシテ辭表ヲ差出サシムルキハ第六條ニ準シテ後席ヲ撰定スルヲ得

第十九條 凡ソ曹洞宗末派寺院ノ中平僧地庵室ハ現住退隱若クハ移轉乃至圓寂跡都テ該小本寺ニ於テ住職ヲ撰定スヘシ尤モ平僧地タリモ從前自カラ後席ヲ撰フノ權利アル向ハ舊慣ニ據ルヲ得

第二十條 凡ソ曹洞宗末派寺院ノ中開基大檀頭ノ創立ニ係リ該寺住職ニ一家ノ歸依ニ由テ請待スルノ慣例アリテ尙能外護スル者ハ從前ノ通りタルヘシ

第二十一條 兩本山直末直末及本山任撰地ノ住職ヲ進退スルハ都テ該寺ノ舊慣ニ據リ各其本山ノ指揮ヲ受クヘキ者トス

第四章 住職薦舉

第廿二條 凡ソ曹洞宗末派寺院住職ヲ薦舉スルハ第三章各條ニ據テ相當資格ノ者ヲ

撰定ノ後書式第一號ニ倣ヒタル願書(正副)第二號履歷(一通)第三號誓約(一通)ヲ認

シ試験講録ヲ添附シテ宗務支局ノ奥書ヲ得曹洞宗務局へ進達スヘシ
但第二章第四條ノ標準中同等ノ寺院へ轉住ニシテ次上ノ試験ヲ受ケサルキハ講

錄添附ニ及ハス
第十三條 凡ソ曹洞宗末派寺院住職薦舉ニ該リ願書ニ連署スヘキ人員ヲ定ムルヲ左

ノ如シ
小本寺以上 本人又鑑寺末寺總代一名法類總代一名檀中總代三名以上(檀中ナキハ信徒總

代同)小本寺
法地 本人又鑑寺、法類總代一名、(法類ナキハ組寺)檀中總代三名以上、(檀

ナキハ信徒)小本寺
平僧地以下 小本寺世話人二名以上
第十四條 凡ソ曹洞宗末派寺院住職薦舉ニ該リ連署スヘキモノ其誰レタルヲ問ハズ

故障ヲ爲シテ調印ヲ拒ムキハ爾餘ノ者ヨリ該類末ヲ具申シ宗務支局ヲ經由シテ管

長ノ教裁ヲ請フヘシ
第十五條 前條ノ場合ニ於テハ曹洞宗務局其事實ヲ調査シ適宜ノ計畫ヲ爲ス若シ謂

ハレキキノ故障ナレハ連署ヲ拒ム可ラサル旨ヲ教示ス而シテ之ヲ用非サルキハ當人

ヲ召喚シテ意見ヲ諦聽シ是非ヲ面諭スルヲ定則トス尙ホ剛愎ニシテ我意ヲ主張ス

ルニ於テハ連署不調ノ儘薦舉ヲ許可スルコトアルヘシ
但當人事故ニ托シ曹洞宗務局ノ召喚ニ應セサルキハ無論故障ノ實ナキ者トシ連

署不調ノ儘薦舉ヲ許可スヘシ
第十六條 左ノ各項ニ該ル者ハ何等ノ事情アリモ住職薦舉スルヲ許サズ

一 試験証明狀又ハ叢林行脚証明狀ヲ所有セサルモノ
一 遺書ノ外私ニ書面ヲ交附シテ後住約定ヲ爲シタルモノ

一 竊ニ金員若クハ物品ヲ授受シテ後住約定ヲ爲シタルモノ
一 非住職ニシテ警誡條規學科降殺以下ノ警誡ヲ受ケ懺謝未済ノモノ

一 住職ニシテ同上ノ警誡ヲ受ケ懺謝未済中移轉ヲ要スルモノ
一 逆轉移住ノモノ
但甲寺ヲ退休ノ後乙寺へ住職ハ逆轉ノ限ニ非ス

一 交換住職ノ實跡アルモノ
一 檀中信徒ノ輩私ニ投票シテ其人ヲ定メタルモノ

第五章 住職任免

第十七條 凡ソ曹洞宗末派寺院ノ住職ヲ任免進退スルコトハ管長(兩本山ヲ云フ)固有

ノ特權アリ故ニ第四章第廿二條ニ據テ薦舉スル者ヲ受理ノ之ヲ宗規ニ照シテ住職ヲ許否ス其許可スヘキハ辭令ヲ下附シ否却スヘキハ理由ヲ訓示スベシ

第廿八條 凡ソ曹洞宗未派寺院ノ中法類又ハ檀中紛議ヲ生シ第三章第九條第四章第廿四條ノ手續ヲ爲サスシテ妄リニ我見ヲ主張シ住職撰定若クハ薦舉ニ障礙ヲナス一ヶ年以上ニ及フキハ曹洞宗務局ヨリ相當ノ人器ヲ特撰シテ住職ニ任スルヲ定則トス

第廿九條 第三章第十六條第十八條ニ該ル者ハ第四章第廿二條ニ準スル薦舉ヲ要セズ住職ヲ任許シテ適當ノ告達ヲ爲スヘシ

第三十條 左ノ事項ニ該ル者ハ直チニ住職ヲ罷免スベシ

- 一 寺法條規ニ違背スルノ實跡アルモノ
- 一 寺院身代限ノ處置ヲ受ケタルモノ
- 一 現行ノ宗規ヲ遵守セズ志操不長ニ由リ教誡又ハ誹責ヲ加フルニ尙ホ悔悟セズ面諭改心セシムル爲屢召喚スルモ事ニ托シテ出頭セサルモノ若クハ出頭面諭ヲ受ケテ改心セサルモノ
- 一 一時ノ偷安若クハ時勢ヲ口實ト爲シテ全國未派一般ノ成規ニ反スルノ所作アルヲ以テ事實ヲ懇諭スルニ悔悟ノ色ナク却テ名ヲ哀訴歎願ニ藉リテ故ヲニ剛復具ルモノ

戻終ニ宗規ヲ守ラサルニ至ルモノ

一 一地方若クハ一組或數寺黨ヲ結テ宗規ヲ誹毀シ曹洞宗務局及宗務支局ニ抗抵スルモノ

一 檀中過半数不歸依ヲ具狀シ德望ヲ失スルノ實跡アルモノ

一 事實ヲ隱匿シテ第四章第廿六條ニ該ル者ヲ薦舉シ住職任許ヲ得テ後事實發露ノモノ

第三十一條 凡ソ曹洞宗未派寺院ノ住職ヲ任免スルハ書式第四號ニ準スル辭令ヲ下附シ宗務支局ヲ之ヲ本人ニ傳達セシム本人ハ速ニ書式第五號ニ倣ヒタル請書ヲ差出スヘシ

但剛復ニシ辭令ヲ拒ミ請書ヲ差出ササル者アリモ任免上ニ効力ヲ失セサル者トス

第三十二條 凡ソ曹洞宗未派寺院住職ノ中第三十條ニ該リテ免職ノ者辭令到達ノ翌日ヨリ起算シ一週間以内ニ監寺隣寺又ハ組寺并檀中總代立會穩便ニ寺有ノ財産什具ヲ取調之ヲ監寺ヘ引渡シ而後直チニ寺門ヲ退去スヘシ

但本條ノ場合ニ於テハ宗務支局免職辭令ヲ本人ニ傳達スルト同時ニ隣寺組寺又ハ法類適宜ノ者ヘ監寺ヲ命ズルヲ法トス

第三十三條 前條ニ該ル者或ハ私ニ檀越ニ依頼シ寺内ニ滞在シテ依然宗教事務ヲ取扱寺有ノ三寶物ヲ受用スルキハ監寺ヨリ直チニ其旨ヲ宗務支局へ上申シ宗務支局ハ之ヲ管長へ具狀スヘシ

第三十四條 凡ソ曹洞宗ニ歸依スル檀越ハ誠意ヲ以テ各自ノ香華院ヲ保庇シ住職ノ世諦ヲ贊助シテ寺有資産ヲ浪費セズ堂宇營繕什具ノ修補ヲ怠ラシメサル様外護ニ力ヲ盡シ住職ヲ宗規ヲ恪守シ眞諦ノ布教ヲ專ニスルコトヲ得セシメ各自ノ安心立命ハ勿論該寺ノ榮昌一宗ノ盛大ヲ冀圖スルヲ主眼ト爲スヘシ而ルニ住職ノ者自カラ省ミズノ宗規ヲ犯シ職ヲ免セラル、カ如キハ檀中ニ於テ假使人情忍ヒサルノ威アリモ信教上之ヲ堪容セズ必ス第三十二條ニ準スルノ計畫ヲ爲スヘキ者トス

第六章 結則

第三十五條 凡ソ曹洞宗未派寺院ハ開闢ノ新古若クハ檀越外護ノ方法如何ニ關セズ最初ヨリ本末ノ規式ヲ定メ法脉ヲ嗣承シ一宗公共ノ憲章アル者ニ付開基大檀越タリモ宗規ノ範圍ヲ外レテ住職任免進退上ニ障礙ヲ爲スヲ得ス

第三十六條 曹洞宗管長ハ全國未派及僧侶ヲ統管スルノ大權ヲ特有スルニ由リ一寺住職ハ勿論寺院ニ屬スル一切ノ檀越ニ對スルモハ其何人タルヲ問ハズ宗規ノ範圍内ニ於テ教誨諭示ヲ盡スヘシ故ニ凡ソ住職撰定及薦舉若クハ任免進退ニ該リ檀中

甲乙ノ間ニ紛議ヲ生シ又ハ僧侶ト檀中ト意見ヲ異ニスルコトアルキハ曹洞宗務局ニ於テ精密調査ヲ遂ケ是非ヲ判明シテ適當ノ教諭ヲ爲スヘシ若シ其教諭ヲ信受セザレハ僧侶ハ宗科ヲ以テ論シ檀中ハ自己ノ分限ヲ棄却スル者ト見做シ其意見ヲ不問ニ附ス

書式第一號 用紙美濃紙又ハ同寸法ノ紙ヲ用フヘシ

住職繼任願

拙僧儀 老衰ニ及ヒ 候ニ付退隱仕度依テ後住ハ 移轉ナレハ 拙僧儀何國何區郡町村何寺住職

ノ請ヲ受ケ候ニ付移轉仕度依テ後住ハ 移轉跡監 寺ナレハ 何寺住職何誰年月日何國區郡町村何寺へ移轉仕候ニ付後住ハ 遷化跡監寺 何寺住職何誰年月日遷化ニ付該遺言ニ由リ後住ハ何國區郡町村何寺住職ハ 又ヨリノ願ハ 何寺住職何誰ハ 何寺住職姓名徒弟何誰へ相續スヘキ旨宗規ニ準シ干與人一同協議ヲ遂ケ薦舉仕候條御調査ノ上支幣無之候ハ、御任許被成下度乃チ本人履歷並誓約書相添此段連署ヲ以相願候也

何國區郡町村何寺末

何國區郡町村寺格住職又監寺

年 月 日

何 誰 印

小本寺以上ハ

何國區郡町村何寺住職

末寺總代

何

誰

印

何國區郡町村何寺住職

法類總代

何

誰

印

何國區郡町村何寺住職

組寺又ハ同門何

何

誰

印

何國區郡町村

檀中總代

何

誰

印

三名以上記スヘシ

何國區郡町村

信徒總代

何

誰

印

同上

小本寺何寺住職

何

誰

印

管長宛

支局與書案

檀中ナキ者ハ

法類ナキ者ハ

前書願出取調候處事實相違無之ニ付與書進達仕候也

年月日

何府縣宗務支局又何號取締

何

誰

印

最初肩書ノ寺格トハ常恒會片法幢會隨意會小本寺法地ト各々其格ヲ記スヘシ
遷化跡無遺書又ハ無住跡逃亡失踪跡等ハ本文雜形ニ準シテ其事實ヲ記スヘシ
平僧地ハ小本寺ヨリ任免ヲ願出ツベキ者ニ付拙寺平末又末庵何國郡町村何寺住
職又看住何誰圓寂仕候ニ付後住ハ云云ト記スヘシ

書式第二號 刷紙同上

履歷書

一 誕辰 何曆何年何月何日出生

一本貫 何府士族何國區郡町村何誰長男カ番地在籍カ

一 得度 何曆何年何月何日何國區郡町村何寺住職誰ニ就テ得度

一 入衆 何曆何年何月何日何國區郡町村何寺住職誰ニ就テ得度

一 修學 何曆何年月ヨリ何年月迄何國郡町村何寺住職誰ニ隨侍何曆何年月ヨリ本校
ハ掛籍學科何級卒業

一立身 何曆何年夏國郡村何寺住職誰再會法幢會ハ格ニ於テ立職
 一傳法 何曆何年月日國區町何寺住職誰ノ室ニ入テ嗣法
 一住職 何曆何年月日國區町何寺へ首先住職移轉アル者ハ何曆何年月日國區町何寺へ轉住
 一退隱 何曆何年月日某寺退隱
 一試驗 何曆何年月日何級了畢証明狀ヲ得ハ行脚証明狀ヲ得
 一轉衣 何曆何年月日越能本山ニ就テ轉衣
 一結制 何曆何年夏何寺ニ於テ和會修行
 一法臘 何十何歳
 一世壽 何十何年

右拙僧履歷毛頭相違無之候也

年 月 日

管長宛

師僧又
ハ法類

何國郡町村何寺住職

保証人 何 誰 印

書式第三號 用紙同上

拙僧儀何寺住職御任許テ蒙ル候以上ハ寺法ヲ格守スルハ勿論一切現行ノ宗規堅ク遵奉可仕候萬一違犯有之候ハ直チニ住職罷免被申付候共毛頭異議仕間布候依テ誓約書如此ニ候也

年 月 日

管長宛

師僧又
ハ法類

何國區郡町村何寺住職

保証人 何 誰 印

書式第四號

任何國區町何
 何寺住職 誰

年 月 日 印

管長姓名

何院寺住職

依願免住職

年 月 日 印

管長姓名

事故ニ係リテ罷免ノモノハ
 單ニ免住職トス

御請
 何 誰
 任何國區町 郡村
 何寺住職
 年 月 日
 辭令ニ記載アル日附
 右謹テ御請申上候也
 右
 何寺住職
 年 月 日 何 誰 印
 本人辭令受領ノ日附
 管長宛

以上

御請
 何國區町 何寺住職
 郡村 何 誰
 依願免住職(又免住職)
 年 月 日
 辭令ニ記載アル日附
 右謹テ御請申上候也
 右
 年 月 日 何 誰 印
 本人辭令受領ノ日附
 管長宛

明治廿七年十月廿八日印刷
明治廿七年十一月八日發行

長野縣北佐久郡小諸町

發行者

小山捨吉

長野縣北佐久郡小諸町

印刷者

中澤萬助